



かじおレポート



子供たちの社会体験プログラムを視察しました!

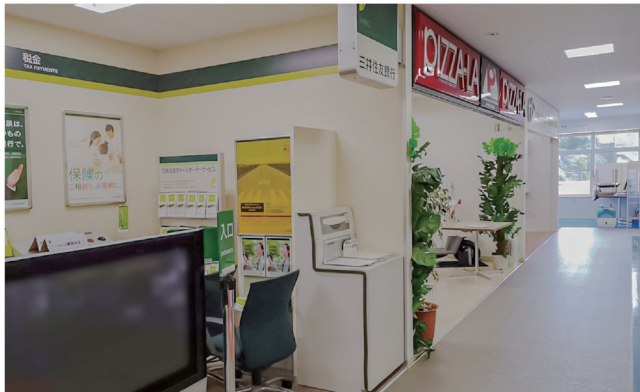
コロナ禍で今年の受け入れはなく、来年度から受け入れ再開ということで生徒さんたちの活動の様子は拝見できませんでしたが、公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本の専用施設のある品川学園を訪問し、今回は二つのプログラムについてお話を伺いました。

スチューデント・シティ

住民は小学生!
街は人が動かししている!

本物の街を再現し、小学校5年生が物やサービスを「供給する側」と「受ける側」を交互に体験するプログラムです。

学校での事前学習・実際の活動を通して、社会は仕事を通じて支えあい成立していること、経済の仕組み・お金とは何か? 仕事とは何か?などを学ぶ機会となります。同僚である仲間達と協力し、初めての「仕事」にチャレンジし、なぜ失敗したか、うまくいった理由は何かを、「仕事」から学ぶことができるといふことです。



本物そっくりの店舗が並んでいます

また、働くことの大変さ、働く人の気持ちを子どもたちがリアルに体験できるということは大きな意義があると思います。

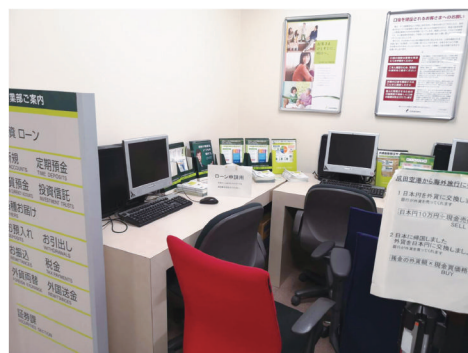
ファイナンス・パーク

生きていくために
必要なお金とは?

こちらは中学生から高校生向けのプログラムですが、再現された本物の街で、生活に必要とされるお金について、大人の立場で生活設計をするプログラムです。学校での事前学習で習得した生活に関する知識を、ファイナンス・パークで実際に使いながら、お金と自分に関わる様々な選択と意思決定を行います。生徒はそれぞれに与えられた人物像(例 三十歳、既婚、子ども一人、年収六五〇万円など)から月間純所得を計算した後、各ビジネスブースを回って予算項目について情報収集し、自分の収入に見合った支出レベルを意思決定するという内容です。

学んだことを単なる知識の蓄積として終わらせるのではなく、その知識を自分のものとして実際に使えるために、自ら考え、意思決定し、行動に移す場として提供しています。子どもたちが生涯にわたって賢い生活者としての意思決定ができるよう、その素地を培うための問題解決能力を育む学習です。

生徒さんたちの感想を拝見させていただきましたが「親の大変さがわかった、感謝」「自分だけでなく他の人のことも考えなけ



銀行を再現したコーナー

れば「消費税、為替のことも分かった」等々、社会に旅立つ前に大切なことを学ぶことができる有意義なプログラムであると実感しました。

横浜でもこれから多くの子どもたちが社会に巣立っていきます。そして予期せぬ様々な困難に直面することもあるかと思いますが、社会に出て人生に迷うことのないようにしっかりと大人になるための準備ができる教育施策も重要だと思えます。子どもたちが横浜で生まれ育って良かったと思えるような取り組みを全力で進めてまいります。

カジノの是非は住民投票で!

カジノを中核とする統合型リゾート(IR)誘致の是非を問う住民投票条例制定を求める署名活動が始まりました。署名受付期間は11月4日までとなっております。この間、街頭でも市民グループの皆さんの活動が行われますが、市民の声を市政に届けるためにもご協力をお願いします。



かじおあきら事務所(港南台駅から徒歩3分)でも署名スポットとして月・火・金(10時から16時・祝日を除く)は署名(港南区在住の方)を受け付けますので、ぜひご利用ください。なお、署名の際には印鑑もしくは指印が必要となります。詳細はお電話にてご確認ください。何卒よろしくお申し込みをお願いします。



ジュニア・アチーブメント(JA)とは

1919年米国で発足し、世界120以上の国々で青少年のために様々な活動を展開しているグローバルな経済教育団体です。企業の支援を受けて青少年に無償でプログラムを提供しています。主な活動としては、ビジネスプランを作成しプレゼンテーションを行うプログラム、意思決定シミュレーション、高校生が会社を運営するカンパニープログラム、各国の高校生がプログラムを通して相互交流したりコンテストに参加するプログラムの実施など。まさにワールドワイドな体験が可能です。日本では、2010年7月に内閣府より公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本と認定を受け、毎年60,000人以上の子どもたちにプログラムを展開しています。

(JA Japanホームページより <https://ja-japan.org/>)

ICTで医療・介護の効率化を！

医療費・介護費負担軽減 利用者の利便性向上

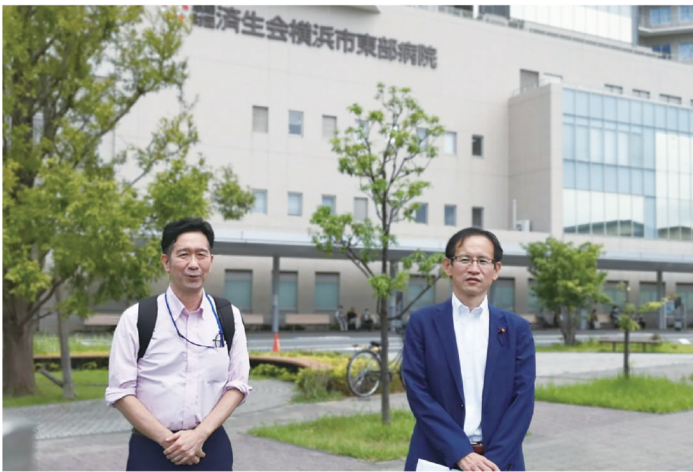
日本の高齢化率(65歳以上人口が総人口に占める割合)は世界一で年々増加する医療費の負担が大きな課題です。また、支援を必要としている高齢者の介護費負担も益々増えています。あわせて、医療・介護従事者の労働負担も大きくなり、業務の効率化や負担軽減が求められています。

私はこの問題を改善するためにICT(II-IT)の活用が不可欠と考えています。医療・介護従事者の効率的な働き方を支援するとともに、医療・介護を受ける方にとっても、治療・療養などに専念でき、さらに、日々の健康づくりにおいても、脈拍や血圧等の身体に関するデータを基にした遠隔医療相談を受けることができる仕組みや、介護予防・機能訓練を支援する仕組みの提供により、病气や介護状態となることの予防にも繋がります。

今後はスマホ、タブレットなど高齢者利用の増加が見込まれます。また、徐々に福祉施設等へWi-Fi環境の整備も進む予定です。ここで重要なのは、いくらネットが繋がっても活用がしっかりとできなければ意味がありません。職員の皆さんや利用者の皆さんの負担にならないようにソフトの充実を図るとともに利用法についても複雑化しないように丁寧な対応が必要だと思います。

鶴見区の情報共有ネットワーク「サルビアネット」を視察

済生会横浜市東部病院にて電子カルテをはじめ、患者さんのヘルスデータをオプトイン(同意)で取得する「サルビアネット」の取組みについて視察しました

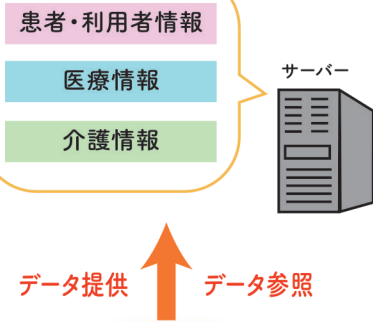


済生会横浜市東部病院にて大岩市議(右)と

一般社団法人サルビアネット協議会

- ・医療データの共通化を目的に「ICTを活用した地域医療ネットワーク研究会」発足
- ・2018年3月に「ガイドライン」を策定
- ・1年かけて準備をし、2019年3/27～サルビアネットを開始
- ・鶴見区の地域拠点病院：済生会横浜市東部病院が中心にPOC(実証実験)としてスタート
- ・病院、介護施設、薬局、クリニック、歯科の情報連携
- ・共有情報→電子カルテ、薬の処方歴、アレルギー、医療機関の受診履歴、検査結果など
- ・自動入力、セキュリティを重視(1日1回更新)
- ・鶴見区・28万6千人の内、7,927人がオプトイン(同意)で加入

サルビアネット データ共有イメージ



実証実験の段階ということですが、登録者や参加施設がまだまだ少ないことや運用の資金も人員も足りない状況です。また、システムが使いにくいなど課題もありますが、住民が病院や介護施設、調剤薬局などを利用した際の医療・介護情報が連携する施設間で相互に共有されるということは、医療提供の効率化が進み、患者やご家族の負担軽減にも繋がると考えます。

現在は医師が患者に時間をかけて説明し、登録してもらおうことがおおよそを占めるところですが、今後、セキュリティ等、信頼できるシステムであることをいかに周知し登録者数を増やすかが鍵です。

福祉関連施設などとの連携も視野に入れて介護従事者の皆さんにも協力をいただくながら理解を深めるためのPR活動などの必要性を提案しました。地域拡大にはまだまだ時間がかかると思います。今後ますます発展する医療分野でのICT有効活用の基盤となるような取組が必要です。

今年度は健康福祉・医療委員会委員としてコロナ対策に取り組んでいます。

まだまだ収束の見通しもつかない状況ですが、やはり日常生活において気をつけなければならぬのが外出を控え、運動量が少なくなると、心と体の機能が低下してフレイル(虚弱)になることです。

自宅内での軽い運動や屋外での散歩を適度に行い、身体を動かすことを心掛けることが大切です。

もう十分綺麗と思えるお部屋でも隙間には意外とホコリが溜まっているものです。しっかりと換気をするなどの片付けや掃除も適度な運動量でリフレッシュになります。



編集部

かじお あきら
梶尾 明

昭和44年(1969)年3月生まれ
大阪芸術大学写真学科卒業
写真家 元国会議員秘書

横浜市議員(1期)
健康福祉・医療委員会
基地対策特別委員会 所属

立憲国民フォーラム
横浜市議員団港南区
政務活動事務所
横浜市港南区港南台3-16-1

TEL 045-353-5723
FAX 045-353-5724
Mail mail@kajio.info
http://kajio.info/